

うま

「**美し国おこし・三重**」の取組について

- 1 座談会が果たす役割
- 2 パートナーグループの取組
- 3 パートナーグループ支援の具体的流れ

有限会社 Landa Associates

平成22年3月16日

1 座談会が果たす役割 ①

新たな活動グループの創出

事例1:木曾岬町公募型座談会 <木曾岬町>
平成21年7月から

参加者同士の趣味の話をつきかけに、米粉と天然酵母と地元産トマトを使った「木曾岬ピザ」の開発で話が盛り上がり、「ごたーげさん」というグループが立ち上がった。

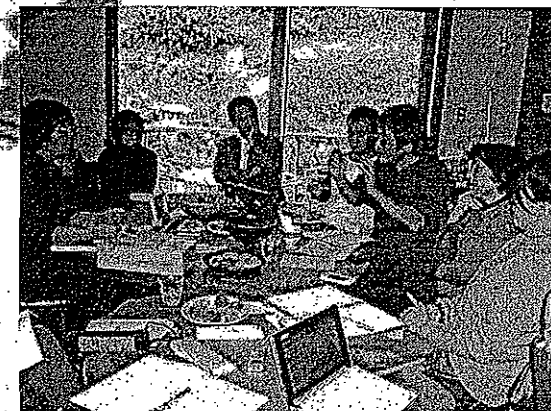


木曾岬町公募型座談会

パートナーグループ同士の連携促進

事例1:合同座談会の連続開催<紀北町>
平成21年11月から

座談会をつづじて知り合ったパートナーグループ同士が、継続して座談会を実施。お互いが連携することで、それぞれの活動を広げていくことに取組んでいる。



「特定非営利活動法人ア・ピース・オブ・コスモス」
「葉っぱがドクター」「Hinokku」合同座談会

平成21年11月6日「葉っぱがドクター・奥川ファーム」
平成22年1月13日「特定非営利活動法人ア・ピース・オブ・コスモス、葉っぱがドクター、Hinokku」

1 座談会が果たす役割 ②

近隣地域の連携づくり

事例2:桑名市・木曾岬町合同拡大座談会 <桑名市>
平成21年11月22日

桑名市、木曾岬町との連携のもと「新たなつながりづくり」を目的に拡大座談会(ワールドカフェ方式)を開催。登録済のPG活動報告や同じテーブル内で協力し合える可能性についての対話から連携のきっかけを創出。お互いが直接、連絡先を交換するなどの姿も見られた。



桑名市・木曾岬町合同拡大座談会

市町間のネットワークづくり

事例1:尾鷲市・紀北町のパートナーグループ連携

尾鷲市・紀北町との連携のもと、パートナーグループの交流を推進。11月29日には、「地域のネットワークづくり」をテーマに紀北町にて拡大座談会を開催。今後は、東紀州地域での対話する大会を開催し、交流・連携を進めていく。



11月29日 尾鷲市・紀北町拡大座談会

平成21年11月29日尾鷲市・紀北町拡大座談会

平成22年2月14日「対話する」大会尾鷲会場 東紀州地域のパートナーグループを中心に他地域のグループや住民との交流を目的に開催

2 パートナーグループの取組 ①

座談会から始まった新しい取組（県北部）

事例1: ごたーげさん <木曾岬町>

受け継がれてきた木曾岬ならではの郷土料理や木曾岬町の特産物を使った新たなレシピづくりを行うとともに、田畑を地域の集いの場と見立て、料理を通じた世代間交流を行い、町おこしを展開していく。

事例2: 三重・とらいあんぐる <四日市市>

既存のNPO 2団体と地元商店街で「地産地消」「商店街活性化」「福祉のまちづくり」の複合テーマで連携し新たなグループを結成。釜焼きトンカツやハム・ソーセージづくりで中心市街地に障がい者の雇用創出の場づくりをめざして活動している。

事例3: ぽっかぽかの会 <亀山市>

障がい児を持つ母親や当事者がカフェの開業を目指して取り組んでいる。昨年11月には市内の農産物を素材に東京の出張調理専門家チームとメニュー開発や調理実習を実施し、市内のイベントにて有料販売し好評を得た。

事例4: 太陽と風の道づくり <津市>

美杉町太郎生地域を通る「太陽の道(レイライン)」に重なる池の平湿原の回復を通じて都市との交流を進めていく。



「ごたーげさん」米粉ピザ試作



「三重・とらいあんぐる」
第2回「三重の物産展&道の駅フェスティバル」

2 パートナーグループの取組 ②

座談会から始まった新しい取組（県南部）

事例1: 里山薬食塾 しえあわせ <玉城町>

畑付きの里山古民家「鶯櫻庵(おうおうあん)」を中心に、食農教育を通じて子どもたちに体験型の食育を行うとともに、日本古来の知恵や日本の文化を正しく伝承する自然塾を開催する。

事例2: Hinokku(ひのつく) <尾鷲市>

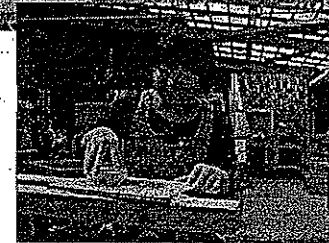
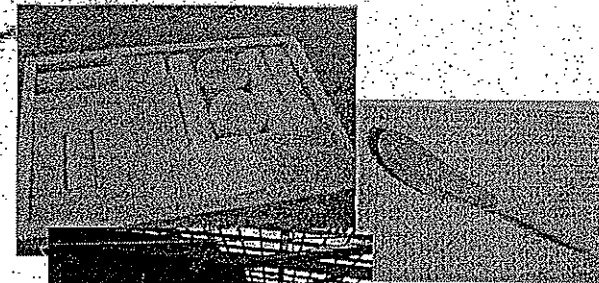
尾鷲ヒノキの間伐材や端材を使って木工品を作ったり、木工教室を開催することにより、木の魅力を発信するとともに、環境保全教育や森づくりにつなげる取組を行っていく。

事例3: 海守り <紀北町>

磯焼け対策として、藻場再生をおこなうグループ。島勝の海岸に海のビオトープづくり活動を開始した。

事例4: 紀宝楽居 <紀宝町>

高齢者の雇用創設を目的に、野菜(らっきょ)作りをビジネス化し、紀宝町の特産品化をめざすとともに、地元の畜産肥料を使用するなど、地域のお産業と連携し、地域活性化に取り組んでいく。



「Hinokku」製作風景と作品



「海守り」子供たちによる伊勢エビ放流イベント

2 パートナーグループの取組 ③

既存の活動のステップアップをめざす取組（県北部）

事例5: 桑名の千羽鶴を広める会 <桑名市>

子供たちへの出前講座や桑名の千羽鶴を国際貢献に役立てようと、外国語での情報発信や在日外国人とのネットワーク化をめざしている。

事例6: まるごと四日市地域ブランド <四日市市>

市内で従事するプロの料理人有志が、環境や品質に優れた市内の生産者との提携関係を築きながら料理を提供していける仕組みづくりに励んでいる。

事例7: 亀山食の祭典部会 <亀山市>

亀山市自治会連合会によって昨年からの取り組みがスタート。食を通しての地域活性化をめざすことを目的にしたイベント「食の祭典」を開催し、亀山のグルメを創出するきっかけを提供している。

事例8: 特定非営利活動法人 ユニバーサルデザイン同夢 <伊賀市>

すべての人が共に支え合って暮らすことのできるユニバーサルデザインのまちづくりをめざす活動で培ったノウハウを、各種の団体が開催する「イベント」の運営に活かすことにより、地域社会に貢献していく。



「桑名の千羽鶴を広める会」
スペインの報道写真家による活動取材



「亀山食の祭典」会場風景

2 パートナーグループの取組 ④

既存の活動のステップアップをめざす取組（県南部）

事例5: ^{ちきゅうごう}たき環境くらぶ“竹遊号” <多気町>

住民で整備した公園「クリスタルの森」を拠点に、住民、企業、学校、各種団体等が協力してこの公園を管理するとともに、公園を活用した環境活動を展開し、環境による地域づくりを進める。

事例6: 三重県伊勢調理師協会 薬草料理研究委員会 <伊勢市>

日本人の「こころのふるさと伊勢」において、東洋医学の「医食同源」の理の基に、疲労回復・滋養強壮等に良いとされる天然資源の薬草・海藻等を数多く使用し、「食養」を旨とした献立づくりを行う。「伊勢に来て心も体も健康になろう」をスローガンに、誘客に結び付けていく。

事例7: 鳥羽まちなみ水族館 <鳥羽市>

「数ある観光地の中から鳥羽を選んでいただきありがとうございます」との気持ちを「おもてなし」という形で表し、環境問題を考えながら、子どもたちと一緒に流木等の海のゴミを活用した海の生き物の作品づくりと展示を行っていく。

事例8: アクティブファーマーズ <紀宝町>

農業従事者の高齢化や後継者不足などの解決の一助となるような地域づくりに貢献する活動に取り組む。



「たき環境くらぶ“竹遊号”」活動風景



「アクティブファーマーズ」研修風景

2 パートナーグループの取組 ⑤

パートナーグループによる、新しい中間支援活動のはじまり。

事例1 みえの食と産業推進協議会<四日市市>

プロの調理師組織として、地域の食材を活用した製菓中心のレシピを開発し、地域活性に励む各種グループに無償提供を行う。

活動実績:平成21年9月26・27日に開催された伊勢湾台風50年事業(輪中の郷・輪中ドーム)で木曾岬産トマトを素材にしたパウンドケーキを限定販売。



「伊勢湾台風50年事業」会場風景と木曾岬産トマトを素材にしたパウンドケーキ

事例2: 美し国ツアーズ <玉城町>

旅行業の資格を生かし、全県のパートナーグループの交流ツアーを実施予定。パートナーグループの交流促進・ネットワーク支援を行う。最終的にはパートナーグループへ送客できる着地型旅行エージェントをめざしている。

活動実績:平成21年12月12日、第一回交流ツアー実施、参加者15名。受け入れパートナーグループ:「古道魚まち歩観会」「手作り工房・ワイワイ」「奥川ファーム」<紀北町>「葉っぱがドクター」<尾鷲市>「木本古道通りの会」<熊野市>「アクティブファーマーズ」<紀宝町> 平成22年は3ヶ月~4ヶ月に1回程度の間隔で実施予定。



「美し国ツアーズ」第一回交流ツアー

3 パートナーグループ支援の具体的流れ ①

◇ぽっかぽかの会 <亀山市>

障がい者が働く喫茶店をつくり、障がい者が社会と繋がる場を提供するとともに、その保護者も含めて情報交換が行える場をつくっていくことをめざす。

- 6月上旬 座談会 障がい者の保護者のグループが、障がい者も健常者もへだてなく集まれるカフェづくりを検討する中で、目玉となるメニューについて、鹿伏兎(かぶと)山脈自然薯の会との合同座談会を開催。自然薯の活用について、協力連携の方向を検討することになる。

- 6月下旬 個別座談会 オリジナルメニューを開発し、近隣のイベント等で実験的に出店を試みつつ、カフェの現実化をめざすグループの意思が固まり、パートナーグループ登録へと進む。
※ その後、地元の農産品活用と障がい者の雇用促進に向けた取組みモデルとしてキックオフプロジェクトに認定される。

- 11月上旬 合同座談会 同じ市内のパートナーグループである「亀山食の祭典部会」と、イベント連携に向けた詳細打ち合わせを行う。

- 11月下旬 地域の食材を活用した現代風の料理を創作する、東京の出張調理専門家チームの派遣により、自然薯を活用したジェラートやスープなど、亀山産の農産品を活用したレシピを開発。「亀山食の祭典」で有料販売し完売。レシピはグループに引き継がれた。

- 12月中旬 障がい者就労支援、関連法の専門家派遣により、障がい者雇用の施策や実例について学ぶ。

- 今後の予定
 - ・自然薯ジェラートの試作(専門家との販売戦略を相談)
 - ・試作販売(2/28、4/4)
 - ・3月に専門家派遣を予定
 - ・法人化の検討(LLC/LLP/NPO)、作業場の確保、福祉事業申請
 - ・カフェの開設

自立・持続可能な取組へ



「ぽっかぽかの会」活動風景

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ②

◇参宮ブランド『擬革紙』の会 <玉城町>

江戸時代から昭和初期まで、伊勢地方一円で生産されていた「擬革紙」の復興を通して、文化的に高く評価されてきたこの地方のかつての工業技術力の証として、また、文化力立県のシンボルのひとつとして、広く情報発信していくことをめざす。

● 4月中旬 座談会(2回目) 意見交換の中で、三忠(旧擬革紙メーカー:明和町、町かど博物館)の協力を得て、かつて伊勢参拜の土産として人気を博した擬革紙を当時の技術で復興させようとの機運が高まる。

● 5月下旬 個別座談会 個別座談会を通して、現実化への意思が固まり、活動のステップが話し合われ、パートナーグループ登録の準備を進める。

● 6月下旬 パートナーグループ登録 擬革紙の復興は、全国的にも発信力があり、地域の活性化につながる取組として期待されることから、グループ登録される。

● 7月初旬 キックオフプロジェクトに認定 失われた文化の復活、地域ブランド開発、産業振興など、多分野連携モデル、情報発信モデルの取組として採択される。

以降、擬革紙の復興に向け取組を進めている

● 8月～11月 歴史的背景調査の実施や昔ながらの手法で柿渋を作る『度会Cb(シブ)倶楽部』と連携。和紙の産地の紹介や型紙に塗布する柿渋の調査を実施した。

● 12月上旬 製作機械を拠点となる玉城町内の施設に搬入し、接着糊の実験、試作を始めた。

● 今後の予定 高知県立紙産業技術センターにおいて、当時の『擬革紙』の成分分析実施する。



「参宮ブランド『擬革紙』の会」活動風景と擬革紙のたばこ入れ

自立・持続可能な取組へ

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ③

◇桑名の千羽鶴を広める会(桑名市)

【目標】

- ・活動機会の拡充と外国人との交流

【課題】

- ・活動の場や機会を拡充するネットワーク化や外国人向け教材の不足、和紙の安定調達

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・NGOピースボートの元ディレクター(一瀬氏)をお招きし、千羽鶴を外国人に伝える際のポイントや海外へ伝えるためのコツを取得(専門家派遣)。
- ・スペイン人報道カメラマンとのネットワーク化による情報発信サポート。
- ・公式ホームページや折り方を外国人へ伝えるためのビデオ教材作成に必要な費用サポート(財政的支援)手続き相談。
- ・和紙の種類や質、折り紙を指導する際のコツを伝授していただける和紙問屋の紹介、現地視察のサポート(ネットワーク化支援)。

【現状】

- ・公式ホームページの制作及び映像教材の製作中。
- ・他市町PGとのネットワーク化による出前講座展開

【今後のサポート】

- ・出前講座の活動機会拡充及び外国への情報発信を目指して、在日外国人グループとのネットワーク化。

◇亀山食の祭典部会(亀山市)

【目標】

- ・市内の産品を活用した亀山グルメを創出する場の開発提供することで、食を通しての地域活性化をめざす。

【課題】

- ・初めての試みとなる第1回「食の祭典」(平成21年11月美施 済み)の集客力向上

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・市内の食開発グループ(ぽっかぽかの会)とのネットワーク化サポート及び地域の食材を使ったケータリングサービスを実践している料理人(マンゴスチン)とのネットワーク化をサポート。

【現状】

- ・第1回「食の祭典」は、予定時間前に販売商品が売切れるなど盛況に終えることができた。

【今後のサポート】

- ・第2回「食の祭典」開催に向けた出展者拡充のお手伝い。

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ④

◇ひとのわコンサート実行委員会(亀山市)

【目標】

- ・音楽を契機にした地域住民の交流機会創出

【課題】

- ・多様な市民が参加できるコンサートイベントの企画立案、仕組みづくり

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・津市在住のイベントプロデューサーを紹介し、コンサートイベントの企画立案や各種デザイン制作をサポート(ネットワーク化支援、専門家派遣)。

【現状】

- ・地元子どもたちや他グループとの連携を軸にした「ひとのわコンサート」の企画立案、案内はがきの作成を終え、具体的な準備作業へ移行中。

【今後のサポート】

- ・「ひとのわコンサート」開催に向けた工程確認や広報情報信のサポート

◇鈴鹿市植木振興会(鈴鹿市)

【目標】

- ・植木祭りの拡充、植木の新たな市場開拓
- ・若い人を「植木祭り」に呼び込みたい

【課題】

- ・1月に開催している「植木祭り」の拡充
- ・若い人を「植木祭り」に呼び込みたい

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・恋愛成就の神様として、県外からたくさんの参拝客が訪れている椿大社との事業連携を提案。
- ・市の観光課と連携し、椿大社宮司との直接対話による連携強化サポート(ネットワーク化支援)
- ・新聞折込チラシのデザイン制作を無償サポートしていただけるデザイナー確保のお手伝い。

【現状】

- ・椿大社との連携による「植木祭り」の開催準備中。
- ・新聞折込チラシの入稿用データ完成。

【今後のサポート】

- ・椿大社との連携による苗木の新たな市場開拓及び、新たな風物詩となる植木市の開催に向けたお手伝い。

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑤

◇とういんボランティア市民活動支援センター
運営委員会(東員町)

【目標】

・中間支援組織として、市民との信頼関係を築くこと、対応力を高めること

【課題】

・中間支援組織として市民への認知度向上、対応力強化

【プロデューサーユニットのサポート】

・ワールドカフェ方式による市民活動グループ同士の交流会開催(3月13日)に際して運営ポイントの助言。

【現状】

・地元市民活動グループ同士の交流会でグループ同士の助けあいを検討する機会を創出することができた。

【今後のサポート】

・3月13日に開催したワールドカフェ方式の交流会結果を踏まえた今後の具体的活動の推進をサポート。

◇まるごと四日市地域ブランド(四日市市)

【目標】

・四日市生産者の情報発信、地元食材の販売力向上

【課題】

・四日市ブランドの広報情報発信力の向上、実績作り、新たな価値の向上

【プロデューサーユニットのサポート】

・新たな四日市の野菜ブランドの開発に向けて市内の種苗業者を紹介し、希少品種(ミニ白菜)をつくりの検討へ(ネットワーク化支援)。

【現状】

・第1回「四日市ブランド」を審査・認定し、認定書授与式を開催。

【今後のサポート】

・ブランド認定品の具体的展開について、方向性や内容の検討、実施検討をサポート。新たな四日市ブランド産品(ミニ白菜)生産に向けたお手伝い。

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑥

◇四日市地域まちかど博物館推進委員会
(四日市市)

【目標】

- ・まちかど博物館の自主運営

【課題】

- ・まちかど博物館を継続発展できる仕組みづくり

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・まちかど博物館の資産は、それぞれの館長が持つ経験や知識、技術であることの確認と共に、今後の出張講座などの可能性を助言。

【現状】

- ・具体的展開に向けて検討中。

【今後のサポート】

- ・県内各地のまちかど博物館のネットワークを活かした新たな事業展開をサポート。

◇乱歩蔵ひらきの会(名張市)

【目標】

- ・乱歩をテーマにした集客交流施設の創出、持続化

【課題】

- ・集客交流施設の創出、集客コンテンツの拡充

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・乱歩生誕地碑広場に展開可能な仮設テント及び機材購入費調達に向けたプロジェクト企画立案サポート(財政的支援)
- ・集客コンテンツの方向性、内容決定に向けた助言。

【現状】

- ・3月21日に仮設テントお披露目イベントを開催予定。

【今後のサポート】

- ・市民劇団の組織拡充及びコンテンツ拡充に向けたサポート

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑦

◇紀宝楽居(紀宝町)

【目標】

- ・高齢者の雇用創設を目的に、野菜(らっきよ)作りをビジネス化し、紀宝町の特産品化を目指す。

【課題】

- ・特色ある商商品作り

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・沖縄県伊江島の特産品、伊江島らっきよの苗を送付

【現状】

- ・苗を株分けし増やすため、現在紀宝町で育成中
来年かからの本格的な生産を目指す

【今後のサポート】

- ・本年度は試作品として在在来種のらっきよを製品化するため、レシピやパッケージづくりに専門家派遣予定。製品化が進めば、流通支援を行う予定。

◇下河内の里山を守る会(紀北町)

【目標】

- ・地元の農産物とそば打ちの技術を活かした、農家レストランと農産物直売所の整備、下河内ならではの体験活動を通じて、都市部との交流を創設し、人材及び後継者の確保をはかる。

【課題】

- ・加工販売所の設置、商品コンセプトづくり、商品開発

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・加工販売所の設置についてプロジェクト企画のお手伝い(財政的支援)。

- ・加工販売所の厨房設備や届けについて、食品衛生管理の専門家を派遣。

- ・商品コンセプトについては座談会のなかから「水」と決定し、水にこだわった商品作りを行うこととなった。

【現状】

- ・今年度中の加工販売所運営を目指し商品作りなどの準備中。

【今後のサポート】

- ・マコモや蕎麦など農作業体験と連動した商品開発の助言

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑧

◇手づくり工房・ワイワイ(紀宝町)

【目標】

・古布、古紙を再利用した生活用品を製作することで、中高年の人たちがものづくりを通じて長く社会との関わりを持ち続けることを支援する。

【課題】

・生産体制の確立、販路開拓

【プロデューサーユニットのサポート】

・会の運営資金確保の手法を模索していたため、座談会にて裁縫や小物づくりの技術を生かし、かつ地域特性をもった商品として、魚をコンセプトにしたオリジナルグッズづくりを提案

・高品質な商品を安定して生産するため、プロジェクト企画に取り組むことを提案(財政的支援)。

【現状】

・魚をコンセプトにしたオリジナルグッズの第一弾として、カツオの抱き枕を販売中。

【今後のサポート】

・パートナーグループのネットワークづくりの一環として、竹遊号(多気町)が取り組む「竹手チップ」の中に入れた抱き枕の試作をサポート。

◇アクティブファーマーズ(紀宝町)

【目標】

・地域農業を維持していくために必要な7人の新規就農者を確保していく。

【課題】

・目標の設定、地域農業関係者との協力関係作り

・農業従事者以外の地域住民の理解促進

【プロデューサーユニットのサポート】

・座談会を重ねる中で「7人の新規就農者を確保」という目的を設定

・活動を地域の農業従事者に知っていただくため、美し国おこし三重実行委員会と共催で開催した拡大座談会の企画・運営をサポート。

【現状】

・拡大座談会終了後、新規就農者を助けていただける地域住民のネットワーク「新規就農者サポーターズクラブ」(仮称)の立ち上げを決定。

【今後のサポート】

・拡大座談会新規就農者にどのようなサポートができるのかアンケート調査を行うことを決定したため、調査項目や手法について助言

・アンケート調査終了後は組織運営について助言

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑨

◇たき環境くらぶ“竹遊号”(多気町)

【目標】

- ・公民連携で整備した公園「クリスタルの森」を拠点に、住民、企業、学校、各種団体等が協力してこの公園を管理するとともに、公園を活用した環境活動を展開し、“環境”による地域づくりを進める。

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・たき環境くらぶ“竹遊号”主催の「竹のフォーラム」へ竹の生態専門家(渡邊政俊氏)を派遣
- ・全県の竹に関する活動をおこなうパートナーグループに、同フォーラムへの参加を呼びかけ。

【現状】

- ・拡大座談会終了後、新規就農者を助けていただける地域住民のネットワーク「新規就農者サポーターズクラブ」(仮称)の立ち上げを決定。

【今後のサポート】

- ・来年度のテーマプロジェクトにおいて、竹に関する活動をおこなうパートナーグループのネットワークとしてどのような関わりがもてるのかを協議

◇へのへのもへ座(尾鷲市)

【目標】

- ・笑いで会員も地域も元気になる活動を目標とする。

【課題】

- ・目標の設定(絵本づくりに決定)

【プロデューサーユニットのサポート】

- ・座談会の中で目標を地域の歴史を子ども達に伝える「絵本づくり」に設定
- ・テーマは尾鷲に伝わる山の神まつり、キャラクターは笑われることで人を幸せにする「オコゼ」に決定。

【現状】

- ・あらすじと絵が完成。現在プロデューサーユニットで精査中。

【今後のサポート】

- ・印刷製本や販売手法について助言。

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑩

◇海っ子の森サークル(鳥羽市)

【目標】

・漁業者による海の植林活動を支援し、自然環境にやさしく、人の手で行える環境再生をいろんな仲間と一緒にいき、三重県から全国に発信していく。

【課題】

・答志島漁協と協働し活動を産業と結びつけること ・教育プログラムの作成

【プロデューサーユニットのサポート】

・ネットワークコーディネートの一環で、東京のレストラン CITABRIAとマッチング。ムール貝(カラス貝)を「海っ子」のメンバーが現在養殖中。夏後にサイズチェックをする。

・教育プログラムの作成への助言

・2月27日～28日、県内の中学生サッカートeamを 紀北町へ誘致。教育プログラムの実証実験として、講習会と藻場再生体験をおこなう。(紀北町:海守り と協働)

【現状】

・今年度に、年齢や目的に応じた教育プログラムを作成予定

【今後のサポート】

・教育プログラムへの助言。必要であれば専門家派遣や研究機関などへのネットワークコーディネートも検討

◇美し国ツアーズ(玉城町)

【目標】

・パートナーグループ交流促進の中間支援組織として「美し国ツアー」(パートナーグループ交流旅行)を実施

・将来的には、パートナーグループへ送客できる着型旅行エージェントをめざす。

【課題】

・パートナーグループの情報収集

・パートナーグループとの関係づくり

【プロデューサーユニットのサポート】

・平成21年12月12日に実施した「美し国ツアー」の企画運営をサポート

・東郷州の受入をパートナーグループの調整や企画を行う

【現状】

・年間3回～4回の「美し国ツアー」を予定

【今後のサポート】

・「美し国ツアー」の企画について助言。

・また、他のパートナーグループの体験ツアー希望者などもネットワーク支援していく。

・東員町心身障害児者親の会のご希望で、他のパートナーグループの活動視察ツアーを実施予定。

3 パートナーグループ支援の具体的な流れ ⑪

◇Hinokku (尾鷲市)

【目標】

・尾鷲ヒノキの間伐材や端材を使って木工品を作ったり、木工教室を開催することにより、木の魅力を発信するとともに、環境保全教育や森づくりにつなげる 取組を行っていく。

【課題】

・広報宣伝、販路開拓、新商品開発

【プロデューサーユニットのサポート】

・新商品開発の一環として、東京の玩具デザイナーに情報提供中。

【現状】

・販路開拓のため、企業にアプローチ検討中。

【今後のサポート】

・伊勢みみやげ研究会との座談会の中で、伊勢玩具の技術伝承のお話をいただいたため現在調整中。

◇元気なふるさと村づくり塾(紀北町)

【目標】

・「おかえりなさい、ふるさとへ」をコンセプトに、訪れた人がほっとする「古里」地域をめざす。

【課題】

・古里の歴史、生活文化、風習などの掘り起こし

・地域住民の理解促進

【プロデューサーユニットのサポート】

・座談会の中で「おかえりなさい、ふるさとへ」というコンセプトを実現していくために、地域の文化や歴史をもう一度見直し、掘り下げて考えることの大切さを確認。

【現状】

・現在、地域に伝わる行事や風習など地域住民に聞き取りカレンダーに落とし込む作業が進行中。

【今後のサポート】

・カレンダー作成に対する助言。

・カレンダー完成後は、行事や風習をどのように地域資源として再現・活用していくのかを助言。